

特集によせて

昭和32年は、故木村素衛教授の13回忌にあたるとともに、篠原助市博士が逝去せられた年である。一つはこれらのことにも因んで、われわれは明治39年、京都大学の教育学教授法講座の創設以来、該講座を担当せられた3人の教授、さらに該講座に深い関係をもたれた2人の教育学者の生涯と業績についての論稿を特集して、ここにこれらの先覚の学徳を記念せんとしたものである。これらの教育学者はいずれも独自の人格と業績をもって、日本教育史上滅すべからざる足跡をのこした人びとである。このことは公正なる教育史家が今後いよいよ明確に認めるところとなるであろうが、われわれはかかる教育史家の研究に何ほどかの資料を提供せんとするものである。